

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷浦富 I 階		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>経営理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」を基に、グループホーム松風の郷 浦富の理念として「あせらない 同じ目線で 笑いある」を掲げ、家族様や地域の方の行事参加等、繋がりを大切に職員一同アットホームな施設を目指し、一人一人のペースに合わせ楽しく過ごせるよう支援に努めています。</p>

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171100104		
法人名	株式会社兵庫福祉保健サービス		
事業所名	グループホーム松風の郷浦富2階		
所在地	鳥取県岩美郡岩美町浦富1418-2		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	令和2年3月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営理念の「ゆっくり 一緒に 楽しく」を基に、グループホーム松風の郷 浦富の理念として「あせらない 同じ目線で 笑いある」を掲げ、家族様や地域の方の行事参加等、繋がりを大切に職員一同アットホームな施設を目指し、一人一人のペースに合わせ楽しく過ごせるよう支援に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.wam.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いなば社会福祉評価サービス		
所在地	鳥取市湖山町東2丁目164番地		
訪問調査日			

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の誰もが理念を常に念頭に置き、サービスの向上に努めているのがうかがえた。みんなで作った理念を基に、さらに具体的な行動指針を作成している。職員それぞれが思いを出し合い、一つのものを作ることで、押し付けられたものではない責任も自覚でき、職員のやる気や活気につながっているのが感じられた。外出支援や食事メニュー等、常に利用者の希望、意向に耳を傾け、一人ひとりに沿ったケアの実現に力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「ゆっくり・一緒に・楽しく」という理念を基に施設の理念のとらえ方の「あせらせない・同じ目線で・笑いのある」を意識しながら、介護を行っている。職員と行動指針を一から作り直し実践している。	玄関や部屋のわかりやすいところに理念を掲示し、周知している。「ゆっくり・一緒に・楽しく」の中でも、特に「一緒に」を大切に、常に意識しながらサービスの向上を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と餅つき会や納涼祭を通じて地域の方と関わる機会を作っている。地域の方が参加されたり地域のサロンに出かける等交流を図っている。	地域で行われているぴよんぴよんサロンに利用者が参加したり、事業所の行事に地域の方々にも参加していただくなど、日常的に積極的な交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に推進会議に参加して頂いたり、地域のサロン・行事に参加し地域に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議での家族様・行政から意見をいただき、実践に活かし取り組みや状況を報告しサービスの向上に活かしている。	2か月に一度、利用者の家族や地域の方、行政担当者を交えて行われている。日ごろの様子や取り組み状況等の報告だけでなく、様々な意見や要望をいただき、実践につなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政との連絡を密にし事業所の状況など踏まえ生活保護の利用者様を受け入れている。また、推進会議などでケアサービスの取り組みや実情を伝え協力関係を築いている。	行政の担当者は、運営推進会議に出席されるだけでなく、生活保護の利用者を受け入れている関係で、毎月面談に来られるため、日ごろから良好な関係を築くことができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、定期的に検討会を実施し適切な運用を行っている。また、身体拘束など排除の研修を行い拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルの見直しも定期的に行っている。	身体拘束ゼロを目指し、職員が一丸となって取り組んでいる。まず身体拘束の対象となる具体的な行為を確認しあい、どうすればしないケアができるのか、とことん話しあい、実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修を行い、虐待防止に取り組んでいる。定期的にマニュアルの見直しを行い虐待防止に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に成年後見制度の施設内研修を行い、個々の状況により活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、締結や解約について丁寧に説明し不安や疑問を尋ねている。また、契約書内に大きく連絡先を提示しつつも、連絡出来るよう伝えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様の来訪時に職員が声をかけ日頃の様子を伝え、意見や要望を伺い、それらを共有し運営に反映している。	来所された家族の方とは積極的にコミュニケーションを図り、意見や要望を聞き取るように努めている。聞き取った意見は、ミーティング等で周知し、日々のサービスやケアプランに反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で意見交換を行い、その都度、管理者に意見や提案等伝える事が出来る。管理者・本部担当者による個人面談を通じ意見交換が出来る場を設けている。意見や提案があれば、職責問わず相談できる体制を整えている。	管理者や本部担当者が定期的に面談を行い、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。日常の中でも、気づいたことや意見を言い合える、良好な関係が築かれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正職登用による意識改善・賃格手当、育休等の整備や処遇改善等制度の活用を行い環境改善に努めている。又、夜勤専従や日勤のみ、フロアスタッフ等多様な働き方を推進し個々の生活に合わせた就業形態を整備している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修を最低基準とし、全体の技術アップを行いつつ、個別に取り組み希望の研修の受講支援を実施。費用補助、研修受講時間を勤務時間とみなす事で働きながら受講しやすい体制を他の得ている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修に積極的に参加することで交流のきっかけ作りや情報交換の場としている。研修などの報告を行い運営やサービス向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様にの困った事や要望があれば、十分に話を伺い、職員間で検討し・共有することで安心できるよう関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様からの不安や要望に耳を傾け、サービス計画の作成する中で、困っている事や要望を引出信頼関係を築けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族と話をすることで、何を必要としている支援かを見極めるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる範囲で、手伝いして頂いている。また、昔の知恵を教えて頂くなど個々の能力に合った関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一度、お便りを家族様へ送付し、近況を報告している。家族様への連絡を密にし、希望があれば、電話など連絡が出来るよう支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設の開放をしており、いつでも訪れる事が出来るようにしている。催し物に出かけるなど、関係が切れないよう支援している。	利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの関係等を把握し、お墓参りや初詣、行きつけの美容院等へ出かけるなど、一人ひとりに沿った支援を心がけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の相性などを考慮し席を決めている。利用者様の好き嫌いは把握し利用者様同士が会話やレクを楽しむように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、臨機応変に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向を把握できるように会話の中から思いや暮らし方を引出し利用者様本位の立場に立ち検討している。	会話の中でボソッと発せられる何気ない言葉や顔の表情、手の動きなど、細かいところにも気を配り、思いや意向を少しでもくみ取れるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家族様に伺い、生活環境の変化が大きくなるよう、馴染みの物を入所時に持参して頂き住みやすい環境となるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人一人の状態の把握に努め、ご自分で出来る事は、安全に配慮し出来るだけご自分で出来るよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個々に担当者を設け、担当者を中心にカンファレンスで検討し職員が現状を把握を図り、家族様来訪時、要望や意見を伺い、意見やアイデア等を踏まえ、本人の課題について介護計画書を作成している。	介護計画書は3ヵ月又は6ヵ月ごとに見直しを行っている。毎月のカンファレンスの中で、利用者の状態や状況を確認しあい、家族にも報告をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしています。日々の記録から実践の結果や気づきなどの情報を共有することで介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様に情報を伝え、その時々利用様のニーズ合わせた柔軟な支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他の協力を得ながら、地域のサロンや行事参加等、楽しく暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常のハイタルサインを元に、医療が必要と思われる利用者様に対し、管理者に状態を報告し、家族へ連絡し行っている。スタッフから受診の有無を尋ねられた場合も管理者に報告し医師と連絡を密に取り、医療の受けられるよう支援している。	利用者や家族の希望に沿った受診ができる体制を整えている。体調に変化等がある場合は、速やかに家族へも連絡をしている。往診や家族との受診も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員から管理者への報告連携が出来ているスタッフが多い為、看護師不在時の情報を管理者を通じて提供があることで、看護的・医療的介入の必要な援助を携わることが出来る。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と管理者の密な連携が出来ている為、利用者様の入院中の様子や退院の目安について情報共有が出来ている。退院後は病院からのサマリーから情報収集及び管理者の情報提供により看護的医療的介入の必要な援助が出来た。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の一般的状態やハイタルサイン、日常生活からの以前と比例しての身体変化を感じた場合、特に衰弱傾向のある利用者の医療的介入が必要であるかと有無を管理者と検討することができた。管理者は利用者の生活背景や家族との連携や方針に順じ、地域医療との連携を取っている	看取りは行われていない。入所時にも明確に伝えられている。事業所としてできることを職員とも確認し、地域の医療機関とも連携しながら終末期に向けた支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	のど詰め等事故発生での急変が起きた場合の処置として必要最小限な物品の確認を行い、常に心構えをしておくことが出来た。また急変の可能性のある利用者様の情報提供を管理者に伝えることを心がけた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常出入口の物品の移動、2階利用者の車椅子使用率が多く1階へ速やかに下りるための工夫・改善スタッフ間の連携と冷静な判断行動等消防からの指導項目の改善に努めている。また、地域避難訓練に参加している。	年に2回避難訓練を行っている。職員の少ない夜間を想定した訓練も実施している。地域の方々にも施設内を見学してもらい、協力してもらえる体制づくりに努めている。備蓄も今年度中に準備する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを心がけている。会議などで検討議題にあげ対応に努めている。	一人ひとりの利用者に対して、常に敬意を持つように心がけている。決してなれなれしくならないよう、またよそよそしくならないよう、場所や環境に配慮した言葉遣いを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意思を会話や行動の中から読み取り、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望や気分に合わせて個々のペースを大切に支援を行っている。個々のペースに合わせて、ダイニングでのレクやテレビなどそれぞれ希望に沿って過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選び服を着て頂けるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の能力を把握し、ご自分で食べられるようメニューを書き食前に読み上げ何を食べるのか分かるようにしている。おやつ作りなど準備や調理を手伝って頂いている。	利用者の希望を聞きながら、メニューを一週間ごとに考えている。	食事をもっと楽しいものにするために、職員も同じテーブルに着くだけでなく、同じ料理を食べることも大事だと思います。味付けも少し薄味にするなどの工夫が必要だと思います。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分を一日通して、確保できるよう一人一人の状態に応じた関りもち支援している。1日の摂取量、形態、回数、内容、時間の間隔、内容など、排尿、排泄の状態や量、内服、睡眠など観察を紙面で行い職員が情報を共有し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけご自分でして頂き、出来ない時、出来ない事は介助にて口腔ケアを行っている。口腔ケアの際、口腔内の残存菌、舌苔、口臭等観察を行い個々に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	良事や環境・定期的な排泄の促し医師の処方で排泄のコントロールに努めている。トイレ後も清潔・悪臭の改善に努めている。医療的技術を施す必要かの相談が出来、医師の指示の下、看護師により排便や浣腸の支援を行っている	一人ひとりの利用者の排泄パターンを把握し、また表情や様子を観察し、さりげなく誘導をしている。 便が出やすいように、腹部マッサージを看護師の指導のもと行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医師の指示の下、排便コントロールを行っている。ヨーグルトや牛乳で便意を促している。腹部マッサージ、蒸しタオルでの温湿布でリラクゼーションを促すことにより自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日のおおよその目安はあるが、利用者様次第で変更している。利用者様の一日の流れのタイミングを見て声をかけ希望に沿って入浴できるよう支援している。職員の都合ではなく、本人様に伺い入浴して頂いている。	できるだけ希望に沿った日時に入浴ができるように、個々に沿った支援を行っている。 入浴を拒む利用者にも、言葉かけの仕方や車いすを使うなど、気分を変えながら、入浴を楽しんでもらえるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活の場であり、共同生活の場でもある為、他利用者様や職員との関りが、安心安全な生活の場になるよう支援している。生活の様子。疾患・性格も考慮し、その時々状況で臨機応変に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効果を最大限に発揮して副作用を抑える内服法方は内服が難しい状況において工夫がされている。日常生活において職員がコミュニケーションを取りながら誤薬に十分注意し工夫しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	タオルたたみや貼り絵、風船バレー等利用者様のできる事、楽しめる事などを行っている。手伝いやレクなど個人個人の能力に合わせ出来る範囲で行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の変化を感じて頂けるよう、野外に出かけられる支援をしています。散歩や希望により買い物に出かけるなど支援している。	季節や天気、また利用者の要望に合わせて外出を行っている。天気が良い日は、近くを散歩したり、コンビニに行くなど、日常的に外出支援が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と受診に後、買い物等される。基本、お金の所持をしていない為、立替払いし、家族様に請求扱いとしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人への手紙やはがきは、配達後、速やかに本人様へ渡している。希望があれば電話をかけてられるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様と季節を感じられるディスプレイや作品作りを通じてコミュニケーションを取り居心地よく過ごせるよう支援している。また、不快や混乱の無い様物品などの配置を工夫している。	利用者の作品や季節感のある飾りが、ところどころに上手に飾られている。玄関入ってすぐの壁には、職員の顔写真が貼られ、安心感を与えている。 誰もが快適に過ごせる空間になるように工夫されているのがうかがえる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士席を近くにし会話やレクなど楽しめるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の家具の配置等、本人・家族と相談しながら居心地よく過ごせるよう工夫している。ご自分の居室と分かるよう、名前や色紙などを貼り工夫している。	どの居室も清潔に保たれ、ゆっくりくつろげるように、写真や作品等が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一日を通じて自分で出来る事は見守りを行いながら安全に自分で行って頂くよう支援している。迷ったり混乱等無い様、物品の場所を決まるなど配慮している。		